

第30回東北建築賞（研究奨励賞）選考報告

選考委員長 松井 壽則

1. 選考経過

第30回東北建築賞研究奨励賞に建築計画部会から1件の応募があり、平成21年12月25日（金）午後1時から東北支部会議室にて選考会を開催した。

なお、出席審査委員は7名であり、委任状提出審査委員7名、残る1名は当該応募論文に関連があるということから審査辞退の届けが提出されている。

応募件数が1件ということもあり、委任状の選考報告を確認の後、予備選考と本選考を兼ねた選考会を行った。

2. 選考結果

応募論文は脇坂圭一氏の「建築内部空間における視覚体験の記述方法に関する研究 その1 ー現代建築の分析に向けた遮蔽縁シーンブックの開発ー」と「遮蔽縁シーンブックの不連続点と視覚体験における分節点との対応ー建築内部空間における記述方法に関する研究ー」のそれぞれ2007年、2008年の2カ年に渉り本支部の研究報告集に掲載されたものである。

現代建築にある流動的空間の評価をするための新しい空間記述手法の確立を試みたもので、生態学の知見をもとに、移動しながらの空間認知の性質を取り込むための手法の意義と可能性について考究している。また丁寧に既往研究を分析し目的の構築を行い、遮蔽縁シーンブックの創出をしている。さらにシーンブックによる心理実験を行い、空間記述手法の新たな提案を行った点などに評価が寄せられた。また、日本建築学会技術報告集に展開しており、学位論文にまとめられている点も大いに評価できるものとして東北建築賞研究奨励賞に値することが出席委員並びに委任状提出委員の全員で確認された。

おわりに委員の中から被験者の属性について今後の課題であるとの指摘があったことを記す。